



はくぶつかん×がっこう

博物館・美術館等と学校が連携・協働した好事例を配信する教員のためのニュースレター

右の土器は県内で発掘された土器です。埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、これらの実物資料を学校の授業で活用していただくことを目的として、無料で貸し出しています。

「これらの土器は、ナベとして使われていたと考えられています。」

この説明と画像からどのような問いが導き出せるでしょうか。

- ・同じナベなのに、なぜ形が違うのだろうか。
- ・どのような物を食べていたのだろうか。
- ・現代のナベと比べて、なぜ細長いのだろうか。
- ・縄文時代のナベはなぜ真ん中から色が変わっているのか。
- ・古墳時代の土器は、どのように使うのだろうか。

このように、画像で見るだけでは、写っている部分の形や色などしか分かりません。



北部 01

縄文時代の土器



西部 18

弥生時代の土器



西部 04

古墳時代の土器

一方、実物資料を子供たちに体験させることで、実際の大きさや重さ、厚み、全体の色などから、さらに多様な問いを引き出すことができます。

- ・同じナベなのに、なぜ大きさが違うのだろうか。
- ・なぜもっと安定する形にしなかったのだろうか。
- ・どのくらいの時間をかけて調理したのだろうか。
- ・弥生時代のナベはなぜこの形をしているのだろうか。
- ・なぜ、こんなに重さや厚みが違うのだろうか。作り方や使い方が違うのだろうか。

多様な問いが引き出されることで、子供同士の対話も活発になり、教科書に掲載されている資料も生きてきます。教科書・資料集で調べられないことは、博物館の専門家に話を聞く活動を設定することで、学習の理解をより深めることもできます。そして、博物館で学ぶことの効果や博物館の役割等も子供たちは学ぶことができ、生涯にわたって学ぶ態度を育むことにもつながります。

子供たちの学びを充実したものにするためには、実物資料や博物館施設を授業で積極的に活用することが重要です。文化資源課「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」のホームページでは、土器を活用した指導実践集を含め、多くの博学連携の実践事例をご紹介します。是非ご活用ください。

博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業 → 博学連携の実践事例 → 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



埼玉県教育局市町村支援部文化資源課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1

TEL 048-830-6912 FAX 048-830-4965

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2216/hakugakurenkei02.html>



子供パワーアップ事業

検索

彩の国  埼玉県

はくぶつかん×がっこう

令和4年6月発行 3号

博物館
学校

埼玉県マスコット
さいたまっち・コバトン

 埼玉